

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02123

研究課題名（和文）中国と日本における愛情の比較歴史社会学的研究

研究課題名（英文）A sociological study of the history of love in China and Japan

研究代表者

川田 耕（KAWATA, Koh）

京都先端科学大学・経済経営学部・教授

研究者番号：50298676

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国と日本における愛情をめぐる歴史を、主に両地域の近世前後の民間説話の分析を通して示した。とくに、近世中国における女神の全能性と母権的世界への期待の高まり、中国における異性愛的な情愛の価値の発見とその定着の長い過程、近世中国（とくに明末以降）における母子関係の意義の発見、近世・近代の日本における子どもたちへの愛情の深化の4つを、それぞれの時期の社会的背景と文化的文脈にそくして、明らかにした。それらを通して、東アジアにおける愛情の比較社会的な理解について一定の貢献をすることができたと思われる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

他者を慈しみ育もうとする欲望であるところの愛情は、家族だけではなく諸共同体・社会の生成・発展の最も基盤的な役割を果たすものでありながら、その歴史的研究も社会学的研究も乏しい。そうしたなか、本研究はそれの東アジアにおける文化的表現の継承と発展、ならびに実態の理解にたいして、一定の独自の貢献をなしたと考えている。とくに、民間説話をはじめとする一次資料に基づいてその細部を分析するとともに、欧州の愛情の歴史との比較も行うことで、東アジアにおける愛情の歴史の独自性と普遍性についての理解に道筋をつけることができたと思われる。

研究成果の概要（英文）：This research examines the history of love in early modern China and Japan, primarily by analyzing folk tales. In particular, it clarifies the following four historical aspects: (1) the growing expectations of goddesses' omnipotence and the matriarchal religious world in early modern China; (2) the discovery of heterosexual love's value and its long-term development in China; (3) the discovery of the significance of the mother-child relationship in early modern China (especially following the late Ming); and (4) the deepening of affection for children in Japan commencing in the late Edo period. Through these analyses, this study contributes to a comparative sociological understanding of the history of love in early modern East Asia.

研究分野：歴史社会学、文化社会学

キーワード：愛情 民間説話 共同性 近世社会 近代性

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、中国と日本における愛情をめぐる歴史を、主に両地域の近世前後の民間伝承の分析を通して、比較歴史社会学的な観点から明らかにしようとするものであるが、愛情の歴史についての研究は東アジアではほとんど行われてこなかったし、そもそも人間の感情や心といった精神的な次元の歴史的研究は東アジアではかなり乏しい状態が続いている。しかし、欧州では「心性」の歴史的研究や「サイコ・ヒストリー」の蓄積が豊かにあり、最近では「感情の歴史」も盛んになっている。本研究は、そうした欧州での研究を参考にしながら、ほぼ未踏の領域である東アジアにおける愛情の歴史を、社会学的な観点等も活かし自身のこれまでの研究成果にも基づきながら、明らかにしようとして出発した。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、中国と日本における愛情の歴史の一端をできるだけ詳細に、一次資料と研究文献を使って、明らかにするとともに、それに基づいて、中国と日本における愛情の歴史についての総体的な理解を、社会的な背景と文化的な文脈もふまえながら、示そうとするものである。そうすることで、中国と日本の双方において、愛情をめぐる人々の認識と価値化において、一見したところの複雑な要素の背後に、漸進的なプロセスがあったことを示すことが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

生きている人の心を知ることも難しいが、過去の人々の一般的な精神的な傾向を知ることはさらに難しい。本研究では、いわゆる民間説話を中心に、そこから派生した（あるいは時にその母体となった）語り物や演劇など、一般の人々の娯楽として流通したポピュラーな「物語」を分析することを研究の主たる手段とする。様々な歴史的な資料のなかで、そうした庶民的でポピュラーな物語こそが、彼らの一般的な精神的な傾向を推しはかる、最も有効な題材だと思われるからである。その分析のさいには、欧州での民間説話の分析方法など理論的な枠組みを適宜参照するとともに、その物語が成立し流通した文化的な文脈とともに、大きな社会的状況との連関についても既存研究等を参考にしながら推測して、一つの総体的な理解を目指そうとするものである。

## 4. 研究成果

コロナ禍にともなう渡航制限により資料収集の作業に遅れが生じ研究期間を1年延長したが、結果的にはほぼ当初の想定どおりに研究をすすめることができた。その結果、分類すると相互に関連する以下の4点において一定の成果をあげた。

中国では、近世以降に強まる父権的な国家的社会秩序と従来からの父系的な祖先崇拜を基軸とする家族的・共同体的秩序の裏側において、性愛的・生命的・女性的なものに対する恐れと憧憬をめぐる長い文化的な蓄積がみられ、それはとくに観音や媽祖をはじめとする近世の女神信仰の広範な興隆としてあらわれた。

中国における近世以降の社会の発展のなかで、そうした恐れと憧憬を乗り越えて、互恵的な関係性を重んじる文化的表現が、才子佳人型の物語に典型的に現れているように、とくに異性愛的な関係を中心に形成され、明末以降には愛情と欲望をめぐるより多様な表現と価値が発達した。

中国においてはとくに明末以降には、民間説話や演劇、あるいは民間信仰などの発展のなかで、異性愛的な関係のみならず、親子関係、とくに母と息子の関係の理想化もみられるように

なり、新しい価値として定着していった。

日本においては、中国に時期的に遅れて国家的な集権化と世俗化が急激に進むなかで、反父権的な女神信仰はさほど育たなかったが、その一方で近世を通じて異性愛的な愛情の理想化は行われ、七夕をはじめとする節句の行事や物語にみられるように、親から子への愛情の文化的・社会的な表現も次第に発達した。

以上の4点の研究成果は以下の14点の論文・学会発表等で示した(うち、学術誌掲載論文が7点、書籍収録論文が2点、シンポジウム報告が1点、学会発表が2点、研究会発表が1点、web siteにおける情報公開が1点である)。

- 1・論文「瓜と洪水：日本における七夕伝説の分析」(2020年11月)
- 2・書籍収録論文「国家と女神：近世中国における母権的共同体の想像」(2021年3月)
- 3・論文「子どもたちの七夕祭」(2021年3月)
- 4・シンポジウム講演「七夕から探る感情の歴史：その学際的研究の試み」(2021年6月)
- 5・学会発表「愛情の歴史のための試論：玄宗楊貴妃譚の分析」(2022年5月)
- 6・書籍収録論文「Secularization and the Joruri Plays: The decline of Religious Belief and the Search for Secular Salvation in Early Modern Japan」(2022年6月)
- 7・論文「末娘の叛乱：「捨て姫」にみる女神の生成についての考察」(2023年3月)
- 8・論文「愛情の歴史のための試論：玄宗楊貴妃譚の分析」(2023年3月)
- 9・学会発表「京都の七夕：文化伝播にみる権威と願望」(2023年5月)
- 10・研究会発表「東アジアの心の歴史を求めて：その方法と見通し」(2024年3月)
- 11・論文「近代日本の七夕祭：国民の夢の道のり」(2024年3月)
- 12・論文「近世中国の物語にみる共同性の深層：中間総括的考察」(2024年3月)
- 13・論文「京都の七夕：文化伝播にみる権威と願望」(2024年5月)
- 14・web site「七夕あれこれ」(随時更新)

以上の14点は、先にあげた4つのテーマとの対比で分類すると以下ようになる(一部重複して分類)

の研究成果：2、5、7、8

の研究成果：4、5、7、8、10、12

の研究成果：2、4、5、7、8、10、12

の研究成果：1、3、4、6、9、10、13、14

以上の4つの研究をふまえた、本研究の総括となる比較歴史社会学的考察の成果として、10と12がある。そこにおいて示した総体的な理解は以下のようなものである。中国と日本においては、時期的な違いはあるものの、大きくいえば、近世社会の展開とともに強化されていった社会全体の集権化を本質的な要因として、新しい共同性への希求が人々のあいだに生じ、そこから、表向きの体制的・社会的な価値観とは異なるかたちで、愛情をめぐる多様な文化的な表現の蓄積と価値化とが、文明化の長い過程の一環として、行われていったことが推測される。

## 5. 副次的研究成果

本研究の中心的な成果ではないが、研究期間における研究活動の副次的な成果として以下の書評(ないし書評にたいするリプライ)を執筆した。

- ・「書評に込めて」(2020年10月)
- ・「山泰幸『江戸の思想闘争』」(2021年3月)
- ・「奥村隆『慈悲のポリティクス：モーツァルトのオペラにおいて、誰が誰を赦すのか』」(2023年6月)
- ・「雑賀広海『混乱と遊戯の香港映画：作家性、産業、境界線』」(2024年6月掲載予定)

以上の研究活動の成果によって、中国と日本における愛情の比較歴史社会学的な理解の進展に一定の貢献をなしたものと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 川田 耕	4. 巻 23
2. 論文標題 京都の七夕：文化伝播にみる権威と願望	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 フォーラム現代社会学	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田 耕	4. 巻 7
2. 論文標題 近代日本の七夕祭：国民の夢の道のり	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 京都先端科学大学経済経営学部論集	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.60325/kuasjournal/eba.007_004	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田 耕	4. 巻 52
2. 論文標題 近世中国の物語に見る共同性の深層 中間総括的考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人間文化研究：京都先端科学大学人間文化学会紀要	6. 最初と最後の頁 163～192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20558/0002000090	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田 耕	4. 巻 50
2. 論文標題 愛情の歴史のための試論：玄宗貴妃譚の分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間文化研究	6. 最初と最後の頁 39-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20558/00001479	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田耕	4. 巻 5
2. 論文標題 末娘の叛乱：「捨て姫」にみる女神の生成についての考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 京都先端科学大学経済経営学部論集	6. 最初と最後の頁 149-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田耕	4. 巻 45
2. 論文標題 瓜と洪水：日本における七夕伝説の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化研究	6. 最初と最後の頁 147-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田耕	4. 巻 2
2. 論文標題 子どもたちの七夕祭	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都先端科学大学経済経営学部論集	6. 最初と最後の頁 157-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川田耕
2. 発表標題 京都の七夕：文化伝播にみる権威と願望
3. 学会等名 関西社会学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川田耕
2. 発表標題 東アジアの心の歴史を求めて：その方法と見通し
3. 学会等名 京都先端科学大学人文学部研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川田耕
2. 発表標題 七夕から探る感情の歴史：その学際的研究の試み
3. 学会等名 京都先端科学大学科学大学「研究の絆」シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川田耕
2. 発表標題 「愛情の歴史のための試論： 玄宗貴妃譚 の分析」
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ugo Dessi, Christoph Kleine	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Brill Academic Pub	5. 総ページ数 196
3. 書名 Secularities in Japan (担当: 'Secularization and the Jorui plays: The decline of Religious Belief and the Search for Secular Salvation in Early Modern Japan')	

1. 著者名 川田 耕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山代印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 372
3. 書名 松田素二ほか編 『日常実践の社会人間学』（著者担当：「国家と女神：近世中国における母権的共同体の想像」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「七夕あれこれ」 <a href="https://tanabatahomeblog.wordpress.com">https://tanabatahomeblog.wordpress.com</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------